

第19回特別展

神戸開港120年記念特別展

神戸はじめ物語展 —近代都市・神戸のはじまりと開化風俗—

慶応3年12月7日（1868年1月1日）の開港以来、外国との貿易の振興とともに、神戸は欧米文化をとり入れる窓口となり、日本の近代化に大きな役割を果たした。ハイカラな町神戸には、進取の気風あふれる独自の文化が形成され、それは現代にも受けつがれている。ゴルフ、映画をはじめとして、神戸を発祥の地とする新しい「モノ」や「デキゴト」も数多く誕生した。

本展は、近代都市神戸の"はじめ（草創期）"のころの様子と、神戸が"はじめ（発祥）"とされるモノゴトという二つのテーマで構成され、外国の文化を受け入れて変容していく神戸の姿を浮き彫りにしようとする試みである。



※この図録は完売いたしました。



居留地風景 (Division STREET KOBE)

会期／昭和62年6月6日(土)～7月26日(日)

会場／特別展示室1、南蛮美術館

主催／神戸市立博物館、神戸新聞社

後援／サンテレビジョン、ラジオ関西

協賛／UCC上島珈琲株式会社

開館日数／44日

入館者数／20,462人

出品件数／279件